

JASIAS2017@KOBE

日本映像学会第43回全国大会@神戸大学 第3通信

大会テーマ：「宇宙 × 映像」

宇宙は映像の発達に深く結びついてきました。

写真・映画・TVなど、映像技術にとって、宇宙はそのつど、自らの推進力のひとつになっていたのかもしれませんが。その結果が、天体写真や観測映像、宇宙探査映像やロケット発射TV中継、SF宇宙映画という映像の群れであり、これを「宇宙映像」と呼んでみてもよいでしょう。今大会では、宇宙映像を素材にし、宇宙と映像を「かけあわせる」ことで、宇宙という環境が人間の身体にどのような作用を及ぼすのか、無重力においてものを見るとはどういうことか、映像を介して宇宙と身体とメディア技術が過去から現在にかけてどのように相互に引力を及ぼしあっているのかを考えてみたいと思います。

日本映像学会第43回大会実行委員長・副委員長
前川修／板倉史明

○大会概要

会期：2017年6月3日(土)～4日(日)

会場：神戸大学六甲台第2キャンパス(農学部)

大会参加費：会員3000円、一般2000円、

一般(非会員)の大学生・大学院生1000円

懇親会費：5000円

昼食券(2日目)：事前申込制・お弁当500円+お茶100円

○プログラム概要

6月3日(土)【講演・シンポジウム・懇親会】

11:30～受付開始(農学部エントランス)

13:00～13:15 開会の辞(農学部C101)

13:20～14:40 基調講演「宇宙と映像」(農学部C101)

講演者：柳川孝二(JAXA 社友) 司会：板倉史明(神戸大学)

14:50～17:50 シンポジウム「宇宙×映像」(農学部C101)

登壇者：古賀一男(京都ノートルダム女子大学名誉教授)

北野圭介(立命館大学教授)

細馬宏通(滋賀県立大学教授)

島山宗明(聖学院大学講師)

コメンテーター：柳川孝二

司会：前川修

18:00～20:00 懇親会[神戸大学瀧川記念会館食堂

(会場から徒歩3分)]

6月4日(日)

【研究発表・作品発表・作品ループ上映・総会】

9:00～受付開始(農学部エントランス)

10:00～11:50 研究発表/作品発表(農学部B棟各会場)

13:00～16:00 作品ループ上映(農学部B203)

12:00～13:30 昼食/理事会(文学部学生ホール)

13:30～14:30 第44回通常総会(農学部C101)

14:50～18:00 研究発表/作品発表(農学部B棟各会場)

○6月3日(土)懇親会の出欠と4日(日)の昼食案内

会場周辺には飲食店もなく、学食も休みですので、昼食(弁当)をご希望の方はすでにお送りした(総会出欠確認を含めた)往復はがきにて5月26日(金)必着でお申し込みください。また、懇親会の出欠についても往復はがきにて5月26日(金)までにご返信をお願い致します。

○会場所在地・交通

神戸大学六甲台第2キャンパス 農学部

〒657-0013 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1

【JR利用の場合】

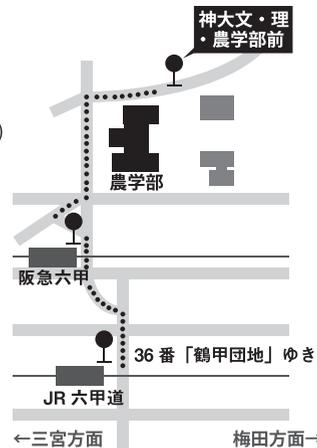
JR六甲道駅下車

- ▶神戸市バス36系統「鶴甲団地」行き
「神大文理農学部前」下車すぐ(約10分)
- ▶タクシー約10分
- ▶徒歩20分

【阪急利用の場合】

阪急六甲駅下車

- ▶神戸市バス36系統「鶴甲団地」行き
「神大文理農学部前」下車すぐ(約7分)
- ▶タクシー約5分
- ▶徒歩約15分

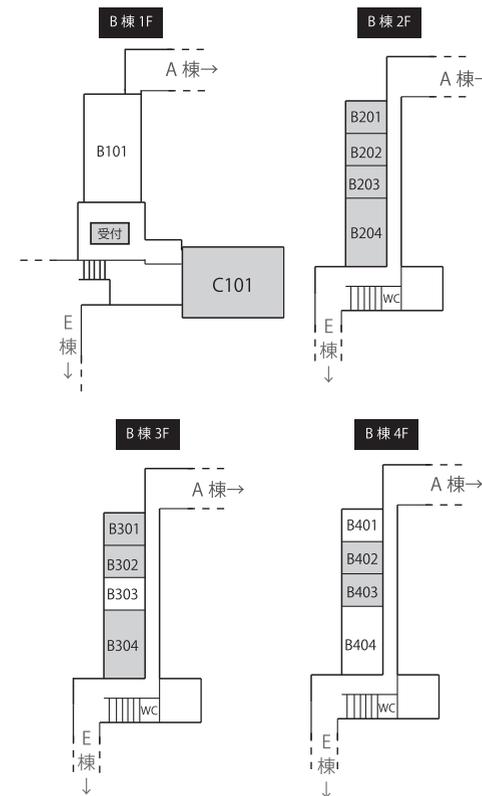


※委細は神戸大学HP「交通アクセス」をご覧ください。

<http://www.ans.kobe-u.ac.jp/nougakubu/access.html>

※駐車場はありませんので、公共の交通機関をご利用ください。

○会場案内



○日本映像学会 第43回 大会実行委員会

委員長：前川修(神戸大学) / 副委員長：板倉史明(神戸大学)

委員(50音順)：

遠藤賢治(大阪芸術大学) 大橋 勝(大阪芸術大学)

加藤哲弘(関西学院大学) 桑原圭裕(関西学院大学)

豊原正智(大阪芸術大学) 中村聡史(関西学院大学)

橋本英治(神戸芸術工科大学)

大会実行委員会連絡先

〒657-0013 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学人文学研究科

日本映像学会第43回大会実行委員会 委員長：前川修

(TEL) 078-803-7453 (FAX) 078-803-7453

(E-MAIL) jasias2017@harbor.kobe-u.ac.jp

※不在のことが多いのでFAXかメールでご連絡いただくと確実です。

大会にかんする最新情報は大会サイトをご覧ください。

(大会HP) <http://jasias.jp/2017main>

日本映像学会第43回大会第3通信

発行：2017年4月27日

(一部情報追加変更：2017年5月15日)

日本映像学会第43回大会実行委員会

6/3
(土)

11:30	大会受付開始
13:00 ~ 13:15	開会の辞
13:20 ~ 14:40	基調講演「宇宙と映像」 講演者 柳川孝二 (JAXA 社友) / 司会 板倉史明 (神戸大学)
14:50 ~ 17:50	シンポジウム「宇宙 × 映像」 登壇者 古賀一男 (元京都ノートルダム女子大学) × 北野圭介 (立命館大学) × 細馬宏通 (滋賀県立大学) × 畠山宗明 (聖学院大学) / 司会 前川修 (神戸大学)
18:00 ~ 20:00	懇親会 神戸大学瀧川記念会館食堂

6/4
(日)

	A 研究発表 B202	B 研究発表 B301	C 研究発表 B302	D 研究発表 B304	E 研究発表 B402	F 研究発表 B403	G 作品発表 B203	H 作品発表 B204
座長	鳥山正晴	大久保清朗	長谷正人	古賀太	岩城寛久	木下千花	G-1 アナログメディア研究会	大橋勝
10:00 ~ 10:30		B-1 森下 豊美 漫画から動く漫画: アニメーションへ — 久里洋二を中心に	C-1 真鍋 公希 特撮作品における「アトラク ション性」— 1950年代の 東宝特撮映画を中心に	D-1 西橋 卓也 グローバル時代のハリウッド 映画におけるナラティヴ — 『バベル』におけるまなざ しの表象について	E-1 大谷 晋平 「シネマ 57」と美術映画 — 作品を「見る眼」の表現	F-1 金 蓓 北野武の映画作品における反復 構造について— 『ソナチネ』 (1993)を中心に		H-1 松本 夏樹/福島 可奈子 幻燈・活動写真混在期(明治~ 大正期)の実物上演による 史料動態調査の実践
10:40 ~ 11:10	A-1 笠間 悠貴 既視の街へ — 小説の中の写真、渡辺兼人・ 金井美恵子『既視の街』に ついて	B-2 趙 瑞 黄金時代アニメーション表現 — 動きの分析を中心に—	C-2 大崎 智史 初期映画におけるトリックの 使用について — 『映画ショーにおける ジョシュおじさん』を中心に	D-2 早川 由真 リチャード・フライシャー 『絞殺魔』における 不可視性と身振り — トニー・カーティスの 演技について	E-2 草原 真知子 「生命系」メディアアートに おける映像の役割 — 「人工生命」から バイオアートへ	F-2 朱 依拉 『晩春』に見る原節子の 「過剰」なる演技		H-2 高山 隆一 「暮れていく」 — 短編映画を可能にする 要素「制作」「提示」
11:20 ~ 11:50	A-2 木村 和代 360度映像における作家性の 考察 — 平面から球体空間で作家 が引き出すものとは	B-3 有吉 未充 ミュージカルアニメの発展と 変遷— アニメーションにお ける音楽と動きの同期、身体 表現の研究の基礎として		D-3 中村 秀之 『市民ケーン』(1941)に おける階級表象とその歪曲 — W・エンブソンの「牧歌」 論を手がかりとして	E-3 宮田 徹也 テクノロジー・アートと映像 との関連性 — 森本加弥乃の場合	F-3 韓 承甫 小津映画における活発な性格 の女性像について — 登場人物の距離感と 彼女たちの意味—		座長 伊奈新祐 G-2 川口 肇 wired-glass no.4 (rack-pinion) — 銀塩フィルム/デジタル 重畳プロセスによる映像表現

12:00-13:30 昼食 (農学部 C101) / 理事会 (人文学研究科学生ホール)

13:30-14:30 第44回通常総会 (農学部 C101)

	橋本英治	桑原圭裕	渡邊大輔	木村建哉	加藤哲弘	中村聡史	G-3 作品発表の映像作品 H の ループ上映	豊原正智	
座長									H-4 相内 啓司 Hello friends - schizophrenic view / たまゆら - Fading shade vol.2 — 多様な志向性と表現
14:50 ~ 15:20	A-3 加藤 良将 インタラクティブ作品「あつ めるあつまる」シリーズの 制作 体験を促すための映像提示の 方法について	B-4 小出 正志 学生アニメーションの振興・ 奨励に関する一考察— 日本 および北東アジアの現状と 展望から	C-3 雑賀 広海 ジャッキー・チェンの落下と 1980年代の香港映画— 『プロジェクト A』と『ボリス・ ストーリー/香港国際警察』 のアクション	D-4 山本 祐輝 『雨にぬれた舗道』(1969) における女性主人公の声— アルトマンの音声の再考に 向けて	E-4 馬 定延 メディアアートのための 生成するアーカイブ (generative archive) 試論 — 三上晴子の作品を中心に	F-4 河野 真理江 齟齬としてのすれ違い — 日台合作メロドラマ映画 『金門島にかける橋』(1962年) をめぐって			H-5 芦谷 耕平 『samskara』(サムスカラ)
15:30 ~ 16:00	A-4 赤羽 亨/池田 泰教 3D スキャニング技術を用いた インタラクティブアートの 時空間アーカイブ — ボーン撮影システムを用い たパフォーマンス作品の記録—	B-5 宮下 十有 小学生のプログラミングにお けるアニメーション表現の 実践、展開と可能性	C-4 魚 慧恩 日本のドラマコンテンツに おける海外進出戦略と課題 — 韓国との比較を通して—	D-5 藤井 仁子 最初の作家主義者としての 作家自身— 映画の作家性を めぐる理論的提言	E-5 関口 敦仁ほか メディアアート文化史構築 研究事業による考察	F-5 中根 若恵 複数の「当事者性」から母親 たちのネットワークへ— セルフドキュメンタリー 『抱く {HUG}』と反原発運動			H-6 黒岩 俊哉 異なった映像視点間における 補完の考察 — 実験映像作品「InH° 4」
16:10 ~ 16:40	A-5 安部 裕 報道・情報番組における IP 中継の技術及び実用について の考察		C-5 江 曼雪 中国におけるショートフィ ルム『一個饅頭引発的血案』め ぐる現象について — 「草の根」から大衆文化 の興起を論ずる—	D-6 百束 朋浩 映画制作を題材とした映画の 自己参照の非メタ性『雨に 唄えば』から『アーティスト』 まで	E-6 太田 曜 シネマトグラフ公開以降のエ ミール・レイノー パントマイム・リュミエーズから フォト・パンチュール・アニメメ まで	F-6 森田 典子 戦時日本における映画的 リアリズムとしての 「ドキュメンタリー」の導入 — 文化映画プロダクション・ 芸術映画社の活動を事例として		H-7 山本忠宏	
座長	遠藤賢治	碓井みちこ	板倉史明	杉野健太郎	関口敦仁	村山匡一郎	G-4 映像表現研究会	H-7 小林 和彦 Roll way	
16:50 ~ 17:20	A-6 郷田 真理子 旧作映画復元のための 「タイミング」技術史 — ベテラン技術者へのイン タビューと現像所の現場から	B-6 飯岡 詩朗 雑誌『ニュー Yorker』が描 いた新しいメディア/ 家電としてのテレビ — 1945-1955年のテレビ をめぐる言説	C-6 上田 学 トキーによる映画受容の 空間的拡大	D-7 平野 大 映画『プレステージ』に見る シルクハットの役割と意味	E-7 北市 記子 コミュニケーション装置として のビデオアート— 山口勝弘の 初期作品『ラス・メニナス』に おける試み	F-7 紙屋 牧子 最初期の「皇室映画」をめぐって 隠される / 曝される「身体」			
17:30 ~ 18:00	A-7 松尾 好洋 劣化フィルムの取り扱いによ る健康障害のリスクと対策 アセテートフィルムから発生 する酢酸ガスの影響を中心に	B-7 中垣 恒太郎 アメリカ医療ドラマの 映像文化史 — 「情報」と「情動」を 伝えるメディア表現の 社会的機能	C-7 田中 晋平 1970年代前半の神戸にお ける名画座と自主上映の関係: グループ無国籍の活動を 中心に	D-8 西村 安弘 沈黙のかなた — ロッセリニを通して 見た遠藤周作	E-8 八尾 里絵子 残されたビデオテープから — 淡路山勝工場の調査と 「山口勝弘アーカイブ」				